

平成28年度

施政方針

目 次

1. はじめに	1
2. 市政運営の基本的な考え方	3
3. 平成28年度主要施策	4
4. 平成28年度予算案	7
5. 平成28年度施策の推進にあたって	8

木津川市

1 はじめに

平成28年第1回木津川市議会定例会の開会にあたり、平成28年度の施政方針をお示しし、議員の皆さまをはじめ、市民の皆さまのご理解とご協力を賜りたいと存じます。

(1) 基本方針

私は、初代市長として市政をお預かりして以来、政治理念であります「クリーンで誠実な心の通った市政」、「公平で公正な立場での市政の実行」を、昨年4月からの3期目の任期におきましても引き続き進めています。

本年は、市制10周年を迎える年です。

振り返りますと、平成19年に3町合併という大きな扉を開き、それぞれの地域の発展や特色を活かした「持続可能なまちづくり」を目指し、道路や教育施設及びクリーンセンター等の都市基盤整備をはじめ、子育て支援No.1のまちづくりや福祉施策など、新生木津川市のまちづくりに取り組んでまいりました。

そして、これからの10年は、これまで以上に「市民・事業者・行政」の3者が、力をあわせ協働するまちづくりを進めることで、本市の魅力を高めて、市民の皆さまが生き生きと輝くまちにしたいと考えています。

(2) 平成28年度の主要な市政の方向性

平成28年度は、本市を大きく発展・飛躍させる大切な年です。

その中でも子や孫の世代に向けた未来のまちづくりに「つなぐ事業」として次の五つの事業に取り組みます。

一つ目は、木津川市版地方創生を定めた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進し、「子ども育マチ・きづがわいい」をスローガンに、「子育て」を柱としたまちづくりを進めます。

二つ目は、4月に開校される京都大学大学院附属農場と連携し、農業への親しみを深めるとともに、農業の活性化、地産地消の推進及び販路拡大などの農業振興を進めます。あわせて、農や食等に関連する企業を誘致し、雇用の創出を図ります。

三つ目は、市民生活に欠かせないクリーンセンターの平成30年(9月末)か

らの稼働を目指して、近く施設建設工事に着手します。

四つ目は、子や孫の世代まで健全財政を引き継ぐため、今後も行財政改革を進めるとともに、新年度からは新たな組織機構により、さらなる行政サービスの充実を目指します。

五つ目は、過去から現在、そして未来に木津川市をつなぐため、市制10周年を迎える来年3月12日に記念式典を開催します。

(3) 市政の近況(平成27年度)

一つ目は、「企業誘致」についてです。

昨年10月に木津南地区におきまして朝日印刷株式会社様が操業され、また精華・西木津地区では、株式会社三菱東京UFJ銀行様の事務センターや「野菜工場事業」を手掛ける株式会社スプレッド様の進出が決定したところです。

さらに、木津南地区において、交渉中の企業様が数社ありますことから、引き続き積極的にトップセールスを行い、企業誘致に努めてまいります。

二つ目は、「認定こども園」についてです。

平成26年から、木津川台地域において認定こども園を視野にいれ、誘致活動を進めてまいりましたところ、昨年秋に事業を実施する法人が決定しました。

現在は、平成29年度の開園に向けて、この法人と十分に連携をとり準備を進めているところです。

認定こども園は、幼稚園と保育園の両方の機能を併せ持つ施設となりますことから、子ども・子育て新制度のもと多様なニーズに対応できるものと期待しています。

三つ目は、「市内農産物のPR」についてです。

首都圏への販路拡大やPRなどを目指した新たな試みとして、東京の板橋区(大山町)の大山商店街において、3月26日から2日間、「木津川市フェア in 板橋」を開催します。

2 市政運営の基本的な考え方

平成28年度は、木津川市版地方創生が本格的にスタートする年であり、昨年から進めています「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進します。

職員とともに、「まちに磨きをかけ、輝かせ、未来につなぐ」という思いを共有し、日々「木津川市のブランディング」を意識し、まちづくりを進めます。

また、この戦略を推進して、「住みたい・住み続けたい・住んで良かった」と実感いただけるまちづくりの実現を目指します。

さらに「6つの基本目標」、『働く・交流する・育てる・集まる・連携する・人づくり』に、市民や事業者の皆さまとの協働により、魅力や特色あるまちづくりに取り組みます。

一方、持続可能な行財政システムを確立するためには、「公共施設の更新・統廃合・長寿命化等の取組み」と「行財政改革のさらなる推進」を行う必要があります。

このことから、財政負担の軽減と平準化、公共施設の最適な配置を実現するため、平成28年度において、公共施設等総合管理計画を定めます。

次に、行財政改革の重点改革項目等の取組みを計画的に実施するため、第2次行財政改革行動計画を推進します。

3 平成28年度主要施策

(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づく主要な施策

先ほどの「6つの基本目標」に基づき、ご説明いたします。

はじめに、学研都市としての特徴を活かした産業の活性化、都市近郊農業の振興・活性化、企業誘致・立地による雇用の創出を目指した『働く』です。

子育て世代へのアンケートでは、市内で働きたいという意見が多くありましたことから、引き続きトップセールスを行い、企業誘致に取り組みます。

また、地場産業の育成支援策として、「ものづくりフェア」を引き続き開催します。

次に、交流人口の増加、地域住民による「地域活性化・観光」の展開を目指した『交流』です。

現代アートを活用したまちづくりとして、「木津川アート2016（山河は語る、アートはうたう。）」を、山城地域を舞台に11月6日から20日まで開催します。

また、南山城地域の茶文化が日本遺産の認定を受け注目されています。さらに平成29年度には、京都府において、「お茶の京都」の取組みが予定されており、市としても新たに移動式屋台を活用した「キヅガワゴン」で、まちの賑わいづくり等に取り組みます。

次に、「子育て支援No.1」のまちづくりを目指した『育てる』です。

各市立小中学校の教諭により、全国学力・学習状況調査等の結果を分析し、学力の充実と向上を目指して「学力向上対策チーム」を設置します。

さらに、民間の認定こども園に対して施設整備補助を行い、多様なニーズに対応できる子育て支援に取り組みます。

次に、小さな拠点を活用した個性と魅力あふれる地域コミュニティを目指した『集まる』です。

子どもたちが安心して通学し、安全に暮らせるよう、昨年に引き続き通学路に防犯カメラを設置します。

次に、地元教育機関や企業との連携によるまちの活性化を目指した『連携』です。

先ほど紹介しました京大農場や関係機関等と力をあわせ、市内農産物のブラ

ンド化に取り組みます。また、商品開発から販路開拓、そして流通までを進める「農で頑張る協議会」を設立し、農産物の価値を高める取り組みを進めます。

次に、まちづくりに取り組む、取り組もうとする人材の支援・創出を目的とした『人づくり』です。

魅力や活力あるまちづくりを推進するため、市内で頑張る「市民の皆さまや事業者の皆さま」をさらに応援する「木津川市ふるさと応援事業補助金交付事業」に取り組みます。

(2) 市総合計画に基づく主要な施策

はじめに、「誰もが安心して暮らせる福祉都市の創造」です。

まず、防災対策として取り組んでいます市内各所への防災行政無線の整備や、内水対策を強化するため排水ポンプ車を導入します。

次に、認知症対策として、新たな四つの事業に取り組みます。

一つ目は、認知症の人と家族が認知症カフェに出向き、地域で助け合う、また支えあう場として、「認知症対応型カフェ事業」に取り組みます。

二つ目は、認知症になっても出来る限り住み慣れた地域で暮らしていただけるように、専門員を派遣し、早期診断や早期対応などに向けた支援体制を図る「認知症初期集中支援事業」に取り組みます。

三つ目は、在宅医療と介護を一体的に提供するための支援として、「在宅医療・介護連携推進事業」に取り組みます。

四つ目には、市民同士で支え合う地域づくりや、介護予防の普及を目指した「介護予防サポーター養成事業」に取り組みます。

次に、「豊かな心を育む教育・文化の創造」についてです。

子どもはまちの宝であり、未来を担う子どもの教育環境の充実として、上粕小学校北校舎改築工事、棚倉小学校改築工事及び恭仁小学校耐震改修工事を進めます。

また、現施設の老朽化に伴い、棚倉小学校内及び上粕小学校内への児童クラブの移設整備も進めます。

さらに、保育コンシェルジュを配置し、子育てに関する情報提供や相談及び関係機関との連絡調整等の子育て支援に取り組みます。

次に、「連携を強め地域を支えるネットワークの創造」です。

歩行者の安全性や利便性の向上を目指し、木津中ノ川線及び木津山田川線の道路改良事業を進めます。

次に、「環境と調和した持続可能なまちの創造」です。

世代を超え、愛着を持って住み続けていただけるように、市営墓地「思いでの丘霊園」として、一般墓地約430区画及び合葬墓地約4,000体の募集を行います。

次に、「まちづくりへの協働と参画」についてです。

コミュニティ活動の推進を目指して、梅美台四・五・六丁目集会所及び城山台地区集会所を整備します。

4 平成28年度予算案

平成28年度予算案では、継続事業の着実な進捗を図ることを最優先し、予算を編成しました。

一般会計の予算規模は、310億900万円で、骨格予算として編成いたしました前年度予算と比較して22億7,500万円、7.9%の増となっています。

市税収入面では、納税義務者数の増加や、城山台地区などの住宅増により、3億7,589万7千円の増収を見込んでいます。

一方、歳出面では、複数年に渡る大型事業のうち、「クリーンセンター整備事業」や「東中央線整備事業負担金」及び「防災行政無線整備事業」は、平成28年度が各事業の最大予算額となります。

これらの要因により、一般会計の当初予算としては、『最大規模の予算』となっています。

特に、市立小・中学校に係る耐震化や改築及び図書室等への空調機設置、認定こども園の施設整備補助金、子ども・子育て新制度に対応するための増額など、子どもの可能性を伸ばす教育推進に、予算の重点配分を行いました。

今後は、公債費負担の増加、基金残高の減少、普通交付税の合併特例措置の逡減など、財政状況の厳しさがさらに増すものと見込んでおります。

このような中であっても、子育て支援の充実や市民の安全安心の確保、特色と活力による魅力あるまちづくりを進めるための予算を、積極的に確保いたしました。

なお、特別会計につきましては、予算規模は176億669万2千円で、前年度と比較して4億4,623万2千円、2.6%の増となりました。

簡易水道事業特別会計は減額となっていますが、国民健康保険特別会計や介護保険特別会計での予算額が増加している状況となっています。

5 平成28年度施策の推進にあたって

現在、日本は世界から様々な分野で、「大きく注目」をされています。

近年、訪日外国人の増加により、今まで日本人が気付かなかった場所やもの、サービスが注目されるなど、それぞれの地域が、新たな視点や創造力で行動することが求められています。

今後、学研都市開発の収束により、都市基盤整備が完成することから、平成28年度は、今までの「都市基盤整備」から都市基盤を活用した「人づくり」と「仕事づくり」のまちづくりへと方向転換を行う時期であると考えています。

このため4月から、昨年7月に設置しました「マチオモイ部」に、企画部門を統合し、まち・ひと・しごと総合戦略と連携した「人づくり」と「仕事づくり」、情報発信や地域イメージの向上に総合的に取り組んでいきたいと考えています。

「人づくり」で地域を元気に、そして多くの人を呼び込み、さらに長く住み続けていただくために雇用の場を創出するという「仕事づくり」につなげていきたいと考えています。

その際、「世界」に目を向けることで、地方活性化の新たな展開が期待できるものと考えています。

また、本市には、多くの子育て世代に転入いただいておりますので、「住みたい・住み続けたい・住んでよかった」と思っただけけるよう、引き続き「安心して・働きながら・子育てできる」まちづくりを進めたいと考えています。

子や孫の世代の「未来につなぐ」ためにも、職員一人ひとりが、今までになく広い視野を持って、まちを愛し、諦めない気持ちで、行動する姿勢で取り組みたいと考えています。

むすび

本方針に基づき、今定例会に提案させていただいております「平成28年度当初予算案」をはじめ、各議案につきまして、ご審議の程よろしくお願い申し上げます。

先人の期待に応え、「未来につなぐ」といった志向を持つことが、今を生きる私たちの責務であると考えています。平成28年度は市制10周年という記念すべき年であり、市政の舵取り役という重責を担う者として、先人が残してくれたこの豊かな自然や歴史文化を大切に、未来をしっかりと見据え、次の世代に引き継ぐため、職員とともに木津川市のまちづくりに取り組んでいく所存です。

これからも、市民の皆さま一人ひとりが、木津川市に住むことに誇りや愛着、そして、たくさんの笑顔と幸せを実感していただけるよう、市政に取り組んでいきたいと存じます。

どうか、議員の皆さまをはじめ、市民の皆さまのより一層のご理解とご協力を賜りますことをお願い申し上げます。